

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価 (地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月29日

協議会名： 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

資料2

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
昭和タクシー有限公司	【デマンド交通「のりあい交通」】 事業者名:昭和タクシー 運行区域:白岡市内及び蓮田病院 運行日:月曜～土曜(祝日、年末年始運休) 運行時間帯:8時30分～17時30分 運行本数:9便／日 運行車両:セダン型車両 運賃:500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)	・リーフレットの全戸配布を行い、のりあい交通の制度の周知を図った。 ・二十歳のつどい式典において、参加者へののりあい交通を紹介したチラシを配布するとともに、市公式ホームページや窓口等において通年で周知啓発を図った。 ・市民ニーズに対応するため、目的地を随時追加した。	B 事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった。	B 事業が計画に位置付けられた目標を達成できない点があった。 【目標】 ①1日当たりの利用者数 目標:46人 ②のりあい交通収支率 目標:18% ③便別利用者数 目標:便別利用者数は1便～3便で特に多いため、4便～9便についての定着及び現状以上の利用促進を図る。 【実績】 ①1日当たりの利用者数47.6人 ②収支率15.8% ③4便～9便の利用者は、前年に比べ全ての便において同等かそれ以上となった。 【分析】 午後の時間が進むにつれ利用者が減少している。病院や買い物での利用が多く午前中に外出する人が多いものと考えられる。	午前中は利用者が多く、予約不成立となることもある一方で、午後の便は予約が埋まらない時間帯があるなど、利用時間の偏在が継続的な課題の一つとなっている。 また、のりあい交通の周知と利用促進を図るため、市広報紙等での案内や、イベント等でのPR活動を実施し、幅広い市民に向けた周知を行う。 引き続き、市民ニーズを的確に把握し、目的地を追加するなど、利用者にとってより利便性の高いものにしていく。

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月29日

協議会名：	白岡市地域公共交通確保維持改善協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	【白岡市地域公共交通計画の基本的な方針】 1、まちづくりと一体となった公共交通環境の整備 2、持続可能な公共交通の確保 3、わかりやすく使いやすい公共交通と利用環境の整備 【上記を踏まえたフィーダー系統維持の目的・必要性】 白岡市は、面積24.92km²の市域の中央をJR宇都宮線が縦断し、二つの鉄道駅(白岡駅、新白岡駅)を有している。本市の路線バスは、「JR白岡駅西口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅東口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅西口・菖蒲車庫」「JR蓮田駅西口・白岡中央総合病院」「東伸団地・白岡中央総合病院」の5路線であったが、令和6年3月13日で「東伸団地・白岡中央総合病院」の1路線が運行終了となったことに伴い、合計4路線となった。いずれもJR宇都宮線の西側地域を運行する路線であり、JR宇都宮線の東側では路線バスが全く運行されておらず公共交通空白地域が存在する状況となっている。 また、JR宇都宮線の西側地域を運行する4路線のうち2路線は、JR蓮田駅を起点として市域の一部を経由し、久喜市へ運行するものであり、市民の利用者は一部に限定されている。 65歳以上の高齢者の割合は、平成17年1月の15.5%から令和5年4月には28.2%となっており、高齢化が急速に進展している。 本市では、平成11年に「町内循環バス」の運行を開始するも、利用状況や運行経費などを勘案し、平成19年3月に廃止した経緯があるが、今後、高齢化が更に進展していく中で、地域公共交通が果たすべき役割がますます大きくなっていくものと考えている。 市民の通院・買物などの日常生活における移動手段を確保し、交通利便性の向上を図るため、費用対効果の高い地域公共交通サービスの構築が必要である。 本市では、協議会での検討の結果、高齢者や駅・バス停から離れた地域の居住者などを主な対象者として日常生活における移動手段を確保することを目的にデマンド交通の運行を行う。

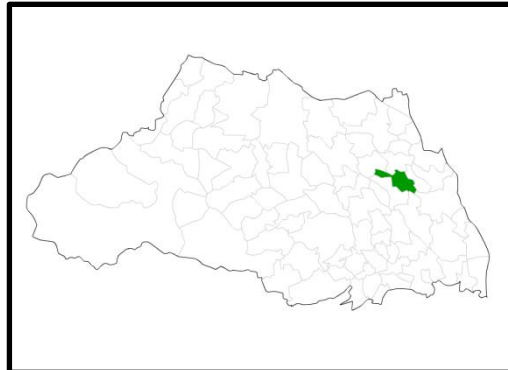
令和6年度 白岡市地域公共交通活性化協議会（埼玉県白岡市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題

白岡市は、面積24.92Km²の市域の中央をJR宇都宮線が縦断し、二つの鉄道駅（白岡駅、新白岡駅）を有している。本市の路線バスは、「JR白岡駅西口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅東口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅西口・菖蒲車庫」「JR蓮田駅西口・白岡中央総合病院」「東伸団地・白岡中央総合病院」の5路線であったが、令和6年3月13日で「東伸団地・白岡中央総合病院」の1路線が運行終了となったことに伴い、合計4路線となった。いずれもJR宇都宮線の西側地域を運行する路線であり、JR宇都宮線の東側では路線バスが全く運行されておらず公共交通空白地域が存在する状況となっている。

また、JR宇都宮線の西側地域を運行する4路線のうち2路線は、JR蓮田駅を起点として市域の一部を経由し、久喜市へ運行するものであり、市民の利用者は一部に限定されている。今後、高齢化が更に進展していく中で、本市では地域公共交通が果たすべき役割がますます大きくなっていくものと考えている。

市民の通院・買物などの日常生活における移動手段を確保し、交通利便性の向上を図るため、費用対効果の高い地域公共交通サービスの構築が必要である。



面積	24.92km ²
人口（R6.4.1時点）	52,549人
15歳未満	6,267人
65歳以上	14,911人
高齢化率	28.4%

交通計画の基本的な方針／定性的な目標

JR宇都宮線東側の交通空白地における高齢者などの移動手段の確保は大きな課題となっている。市民の通院・買物などの日常生活における移動手段を確保し、交通利便性の向上を図るため、費用対効果の高い地域公共交通サービスを構築し、維持していくことが必要である。

【目標】

- ①1日当たりの利用者数 目標：46人
- ②のりあい交通収支率 目標：18%
- ③便別利用者数 目標：便別利用者数は1便～3便で特に多いため、4便～9便についての定着及び現状以上の利用促進を図る。

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

- ・リーフレットの全戸配布を行い、のりあい交通の制度の周知を図った。
- ・二十歳のつどい式典において、参加者へのりあい交通を紹介したチラシを配布するとともに、市公式ホームページや窓口等において通年で周知啓発を図った。
- ・市民ニーズに対応するため、目的地を随時追加した。

アピールポイント

市民ニーズに耳を傾け、乗降場所を増やすなど、実現可能な事項は対応している。また、同時に2人以上で利用する際に、運賃を割り引く「乗り合い割引制度」を設け、効率的・効果的に事業運営ができるよう工夫している。

交通計画の計画期間

令和6年4月～令和11年3月

協議会開催状況

（令和6事業年度に係るもの）

- ・第42回（5年5月24日）
地域内フィーダー系統確保維持計画について
- ・第43回（6年1月29日）
交通不便地域について、地域内フィーダー系統確保維持計画の一部修正について、目的地（主要施設）について
- ・第44回（6年3月13日）（書面開催）
白岡市地域公共交通計画（案）について
- ・第45回（6年5月27日）
目的地（主要施設）について
- ・第47回（7年1月29日）
事業評価について